



## 海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

### 会長メッセージ

デュッセルドルフ稲門会が正式にスタートしたのは1970年の新年会からですが、それ以前も仲間同士が集まって小さな会を開いていたようです。今年で45周年を迎えますが、毎年新年会、早慶ソフトボール、バーベキュー大会、早慶ゴルフ、バス旅行などで親睦を深めています。東西ドイツの統合前にはベルリンの壁見学ツアーも行いました。

現在会員数は100余名、延べ人数は1,000名を超え、在デュッセルドルフ邦人のなかで一大勢力になっています。当地は目立った観光スポットは少ないのですが、日本人にとって日々の過ごしやすさは欧州一だと思えます。

世界中のどこの稲門会でも同じだと思いますが、早稲田大学で過ごしたというだけで、すぐ懇意になれるのは校友に与えられた特権だと思います。デュッセルドルフは、生活する日本人の多くが企業派遣員という特殊な街ですが、人生は出

会い、そしてご縁ですので、会員の皆さんにはドイツで過ごす一時期に、稲門会で知り合った年代を超えたさまざまな友人たちと、素晴らしい思い出をつくってもらえればうれしい限りです。

集まり散じて人は変われど、デュッセルドルフ稲門会は永遠に不滅です。

藤田博史(1974年社学)



幹事集合

### 会員からのメッセージ

デュッセルドルフへの赴任は2010年4月、稲門会デビューは2014年1月。今思えば「何でもっと早く稲門会の門をたたいていなかったんだ!」と後悔しています。そのように私が感じるほど、現在のデュッセルドルフ稲門会は活気に溢れ、和気あいあいとした雰囲気のなか、活発に活動しています。稲門会へ入会して数多くの出会いがありました。一番印象的だったことは、稲門会デビューとなった新年会において「あれ?もしかしてゼミで一緒だった中川?」と商学部ゼミの一期上の先輩から声をかけられ、卒業以来20年ぶりの再会を果たしたことです。

中川敬介(1995年商学)

稲門会の方々となわいのない話をしながら日本食を食べていると、ドイツにいるのを忘れて高田馬場にいるかのような錯覚に陥ります。盛り上がり過ぎるあまり、次の日は二日酔いになってしまうのも学生時代と変わりません。当会は、参加すれば疲れた身も心もリフレッシュして、明日からの活力を与えてくれる素晴らしい会です。これから参加される方は、飲み過ぎにはご注意ください……。

千把卓(2006年政経)

進取の精神に富んだ稲門会の皆さまから得られる現地生活情報は、どれも新鮮かつ魅力的で、常に新しい発見に満ち溢れています。おいしいレストランや、あまり知られていない観光地など、ガイドブックでは知りえない、生きた情報が飛び交っています。初めてお会いする方でも、旧知の友人であるかのように自然に話ができる関係性は稲門会ならではの、いつもありがたく感じています。

鈴木穂高(2007年社学)

### デュッセルドルフ稲門会について



新年会

デュッセルドルフ稲門会は、欧州の数ある日本人コミュニティのなかで、活発で、にぎやかで、豊かな感情の交流が行われている組織の一つです。世代や業種の垣根を越え、分け隔てなく活発に話ができる雰囲気があります。近年では、SNSを通じて稲門会の門をたたく学生や駐在員も増えてきております。駐在、留学などで当地にお越しになる前には、「デュッセルドルフ稲門会」で検索してください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

鈴木穂高(2007年社学)

### デュッセルドルフの魅力

デュッセルドルフは、ドイツ連邦に16ある州のなかで人口最大のノルトライン・ヴェストファーレン州の州都です。人口約60万人の約1パーセントが日本人で、海外における日本人密度は世界一です。市内の中央駅にほど近いインマーマン通り周辺は、日系企業が集中し、日本のオフィス街のようです。欧州にいながら日本に近い感覚が味わえるのは、デュッセルドルフの魅力の一つです。

ビール大国ドイツには街ごとに地ビールが存在しますが、デュッセルドルフのそれは「アルトビール」と呼ばれる上面発酵の黒褐色のビールで、0.2リットルのグラスでぐいぐい飲みます。「ヨーロッパで一番長いカウンター」と呼ばれる旧市街のボルカー通りには、200メートルほどの歩行者天国に200以上の飲み屋が軒を連ね、人々はアルトビールを何杯もおかわりしながらおしゃべりに興じます。

デュッセルドルフの春は白アスバラガスが旬を迎え、夏は夜11時ごろまで明るく、さまざまな野外アクティビティを楽しめます。スポーツ観戦も盛んで、サッカー日本代表の香川選手が在籍するドルトムントや内田選手のいるシャルケには、1時間で行くことができます。また、日本との関係が深い当地には「Japan-Tag 日本

デー」というお祭りがあり、市の人口約60万人に対し約73万人の見物客が訪れます。クライマックスには日本の花火師による花火がライン川上空に大輪の花を咲かせ、夏の訪れを感じる毎年恒例の行事となっています。クリスマス前の4週間のアドヴェント(待降節)には街中が美しいイルミネーションで彩られ、クリスマス市が立ち、熱々のグリューワインを楽しみます。年が明けてしばらくするとカーニバルを迎えます。デュッセルドルフの季節は春夏秋冬カーニバルの5つといわれ、季節それぞれの魅力を感じながら、地元の人から期間限定の在住者、旅行者、出張者まで、誰もが居心地よく過ごせる街です。

猪又尚子(1993年文学)



カーニバル風景

